

お お は の か ん ま い
田布施町大波野神舞 (山口県指定無形民俗文化財)



古くから引き継がれてきた伝統的な祭りや踊りの継承は、地域の連帯感を醸成させ、心の豊かさを育てはぐくみ、今日の郷土の文化を築き上げてきた。

しかしながら、戦後の社会情勢の激変に伴い、このような民俗芸能は全国的に自然消滅の一途を辿っていった。

このような状況の中、江戸時代中期より五穀豊穡、村内円満、悪魔祓い等を願って伝わる大波野神舞(全16曲目)を昭和55年8月、田布施町大波野地区の273軒全戸が加入して「神舞保存会」を設立し、伝承活動と地域づくりに取り組んでいる。

その後、昭和58年には田布施町無形文化財に指定され、平成12年には山口県無形民俗文化財に指定された。ホーホロヒーロに代表される笛の音や太鼓の音は、地域の人々にやすらぎを与え、地域の連帯意識を深めている。

本日の舞について・・・ 一人舞

曲目 12. にほんぎ 日本記

「国すくい」ともよばれる舞で、いざなぎの命みことが混沌こんとんの中から日本を創造され万民の安泰を願うという神話を舞に表現したと伝わる。



山 口 新 聞

平成 25 年 6 月 28 日 (金)

NO.61

農地・水・環境



⑥1

83年に町無形民俗文化財となる。当地区は水利に乏しく、第1号、2000年に山口県無形民俗文化財にそれぞれ指定された。その神舞の里を守ろうと、農地・水環境保全向上対策で大波野環境保全隊を

大波野地区では、江戸時代中頃からといわれる「大波野神舞」が伝承されている。

幸いにも乗り越え、19 設立して2期目の取り組み

大波野環境保全隊 (田布施町)

舞の所作の中には、農民仕事を彷彿させるものがある。兼業化で農家を継ぐ若い人が減少し、一時期は大

大波野神舞の里を守る

また、月一度のベースで環境保全についての話し合いの場を設け、みんなが安心して暮らせる地区を目指している。

今後神舞の里が緑豊かなほ場とともに存続していくことを願って、地区の環境保全に励んでいきたい。

(代表、小野秋生)
 金曜日掲載



⑦ 会員の皆さん
 ⑧ 江戸時代から伝承されている大波野神舞

【メモ】代表 小野秋生
 生▽会員 150人、農家(75戸)、自治会、大波野耕地整理組合、東田布施小学校PTA、田布施土地改良区など▽設立 2007年8月20日▽連絡先 田布施町大波野990、小野秋生さん ☎ 0820・52・4029



に とう 一人舞/刀2本・禪
 二 刀 白はちまき、たすきで
 身をかため、刀でもっ
 て悪魔を追いはらい退治する意味がこめられる
 勇壮な舞である。



湯 だて 四人舞/刀・鈴・小幣・烏
 帽子 神の御降臨を勧請する「神
 降り」の儀式がおこなわれた直後大波野神舞では、最
 初に舞われる「舞」で、幣および刀によって清め、祓
 いをする舞である。

はっ ちよう し 神楽の調子の
 八 調 子 一つで全ての
 調子が含まれているといわれ、「十秒十
 六拍」か「十秒十八拍」といわれてい
 るテンポの速い調子である。

かん 二人舞／裳束・鈴・小幣・
 扇子・烏帽子
 勧 請 「神降り」の神事についで

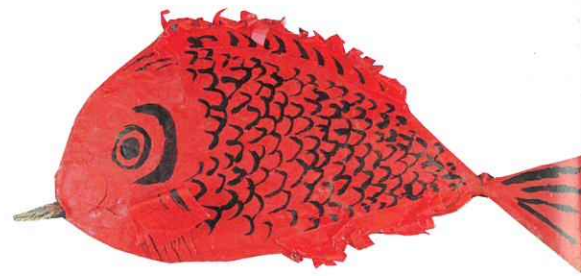
「湯立」により清め祓いをし、神々をお迎えするよるこびの心をあらわした舞で、楽人と舞人が一体となって舞う優雅な舞である。



さん 三人舞／鈴・幣・扇子・
 烏帽子
 三 神 神々が国々をおさめられ

ようとする御熱意と御苦勞を称賛する勇ましい舞である。





え び す
恵比須

一人舞 / 裳束・面・
釣り竿・鈴・小幣・
扇子・烏帽子・襷

大国主命の御子である事代主命が父の業績を語り、父に続いて、人々に漁の方法や商いの道を教え給うた苦労を、恵比須面の穏やかな福相と緩やかな舞ぶりてたえる舞で、五穀豊穰、産業開発を願う舞である。



さん ほう こん じん 三人舞 / 幣・
三宝荒神 鈴・扇子・
烏帽子

仏、法、僧の三宝を守る神々であるが、荒神「荒」の文字から、アラ神、怒りの神、火の神とかわって「かまど」の神として信じられている。したがってこの舞は日常生活の基盤の充実、さらに家内安全を願う舞で、老若男女から親しまれている舞である。



がく じん
楽人

楽は、「大鼓」「笛」「合
せ鉦」によって編成
される。
合せ鉦には「天明元年」の刻印がはっきり
きざまれている。





さ ゆみ
三 弓

三人舞に六郎王子、五郎王子、大夫／弓・鈴・面・すりこぎ・具足・柄杓・烏帽子・襷
若い神々がみだれた国々の平定に出発されるので、大国主命（六郎王子）が加勢されようとするのに対し、弟君の五郎王子が注釈をつけて、お揃いで国家の大平楽を求めて舞う舞である。家内安全、国家安泰が希求されている舞である。

▼五郎王子

▼六郎王子



しば き じん
葉 鬼 神
二人舞／面・襷・刀・烏帽子・杖・鈴・幣・裳束・しらしめ

鬼神と僧とが、榊が聖木として神の御座近くに供えられる理由をたたく問答形式の舞で、災難よけ厄払いから生活のうらおいを志向する舞である。



四天王

八人舞／扇子・小幣・
面・團扇・鉾・薙刀・
禪・はちまき・わら

じ・手甲・脚はん・幟・刀・鈴・烏帽子

この舞は香取神社、鹿島神社、御熊神社、天徳日神社の社中が團樂に興じられる舞で、その團樂の中に大名持神が子孫繁昌の神宝を授けた後、薙刀でもって四方を清め家内安全、五穀豊穡を願う舞である。



奴



薙刀四方切り

薙刀本柄



おなもちのかみ
大名持神の「神宝」

おなもちのかみ
大名持神の一人舞

大將軍

二人舞／弓・矢・襷・幣・はちまき・烏帽子

太夫と大將軍の問答をとおして古来からの座陣弓、発向弓、護持弓、治世弓の四弓の由来について確かにし、魔神を射たおすことをねらいとして舞う舞で、国家安泰、家内安全が願われている。



矢申

これより丑寅の隅に悪魔どもの住家として居まするに
よって、月弓に鳴鏑矢を取り添え一矢を放つ



七五三

二人舞／裳束・鈴・扇子・小幣・烏帽子

別名注連口の舞といわれ、はじめに神々の御出現をよるこぶ舞を、おわりに音舞のうれしさを表わす舞を、その間に大波野神舞の六調子、八調子など全ての調子の舞の型がおさめられた優雅な舞である。





にほんぎ 一人舞/面・裳束・鈴・幣・扇子・鉾・櫛・烏帽子

日本紀

天照大神が豊葦原の瑞穂の国をわが子孫の治めるべき地であるとして、天穗日命や天若彦の神を差し違わされるが、この地に先住される荒々しい神々にさまたげられる。そこでこの地の主大国主命に折衝されると、命は慎んで下命に従って国造りにはげまれた後、献上される。このように紆余曲折を経ながら、天地創造、万民安泰をこいねがう舞である。



ろくじん

六神

六人舞/裳束・鈴・小幣・扇子・烏帽子

天照大神の兄弟が日本各地を治められる雄姿を舞うもので、6つの国とは津の国、美濃の国、信濃の国、筑紫の国、加賀の国、安芸の国をさしているもので五穀豊穡、家内安全を願う舞である。

さんきじん 六人舞/面・手ぐさ・杖・幣・刀・烏帽子・櫛

三鬼神

3人の神つけ大明神が鬼神を説得し国家安泰を図ろうとする舞で、家内安全が願われている。





はっ 八 関

二十九人舞／手ぐさ・面・杖・幣・褌・はちまき・裳束・扇子・鈴・小幣・薙刀・烏帽子

国が開かれ、天下泰平楽に至るには八鬼神の関を通り神を迎えうやまうことによって、初めて可能であるという。国家安泰ひいては五穀豊穡、家内安全の難かしさを説く雄壮な舞である。



清めの薙刀の舞



はち き じん 八 鬼 神

8人の太夫と八鬼神が、たがいの宿から花道にあらわれて乱舞し、綱下りの前に神威によって鬼神の関のいわれを説く舞である。



つな さが 綱 下 り

八鬼神の舞も終わりに近づくと、八関小屋の前の登り松よりおこなわれる。万人の心をこめての奉納である。



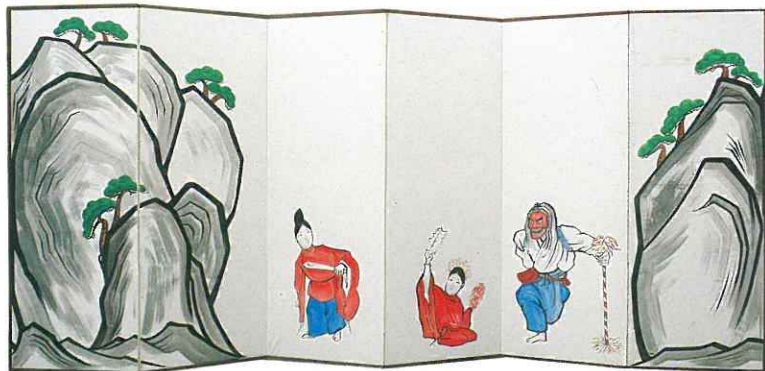


ふすめ 御注連命

岩戸

五人舞／面・扇子・小幣・裳束・鈴・鉾・刀・手ぐさ・杖・日天・月天・烏帽子・瓊瑤・襪

天照大神は天の岩戸に閉じこもられ、高天原は暗闇となり悪行をはたらく神々も出た。そこで高産单日神の命をうけた天児屋根命と天太玉命は諸神に鏡、大刀、幣、榊などをもたせて舞わせられ、さらに大等刀男命を岩戸の傍に立たせ、天宇津女命に神遊びをさせることにより四神を連れられて舞い、岩戸を開き明るい世の中を再現されたことを舞われるもので、国家安泰、家内安全の祈りがこめられている。



天の岩戸

▼岩戸の前に祈りをこめて舞われる大等刀男命の舞



▲目出度く天の岩戸を出られた「天照大神」

▼天の岩戸を出られた「天照大神」を囲んで喜びに満ちて舞われる舞。

